

海で身清め「裸参り」

有田

有田市宮崎町の矢櫃地区で10日、同地区を開拓した初代紀州藩主・徳川頼宣をしのぶ「お日待ち」(市無形

文化財)があった。今年で350回目。ふんどし姿の男性たちが冬の海で身を清め、参拝する「裸参り」などが行われた。

徳川頼宣しのび「お日待ち」

裸参りは地区の高齢化に伴い約30年間途絶えていたが、和歌山大生らの協力で2017年に復活。この日は住民らが見守る中、10～60代の22人が太鼓を合図に海に入り、約100分泳いだ後、恵比須神社と南龍神社を参った。住民や市職員に加え、同市を拠点に活動するマツゲン箕島硬式野球部の選手10人も初めて参加した。

幼少期を矢櫃地区で過ごしたという由良町の高校3年、数見陸斗さん(18)は17年から毎年裸参りに参加している。「風があって例年より寒かったが、海に入り、やっと1年が始まったなと感じた。育った地区に少しでも恩返しをしたいので、行事が続く限り出たい」と笑顔で話した。

【木村綾】



冷たい海で泳ぐ男性たち—有田市宮崎町矢櫃で